

福岡未来創造プラットフォーム 令和3年度(2021年度)事業報告書(作業部会記入)

【ビジョン】

- 大学・自治体・産業界とのリソースの共有にもとづく高等教育及び地域の活性化の推進
- 若者が集積し、成長し、活躍する活気と魅力あるまちづくりの推進
 - 多様な人びとが豊かな学びを通して活躍できるダイバーシティ社会の推進
 - 大学・自治体・産業界の垣根を越えた知的・人的交流の促進と高等教育機能の向上

【令和5年度(2023年度)までの達成目標】

- 福岡市の発展を支える17以上の先進的な教育・人材育成プログラムを共同で開発
(受講者数:延べ1,820人)
- 福岡市内の大学卒業者の市内企業就職率3%ポイント増加(2018年度比)
(2019年3月:26.8% → 2024年3月:29.8%)

評価値	目標以上の成果を上げることができた	S
	目標を達成できた	A
	改善は必要だが、おおよその目標は達成した	B
	目標を達成できず、計画の見直しが必要	C

【令和3年度達成状況】

- 先進的な教育・人材育成プログラムの共同開発件数:4件⇒下表、太字+下線部参照、受講者数:延べ447人(累計共同開発件数:11件、受講者数:757人)
- 福岡市内の大学卒業者の市内企業就職率(2022年3月卒)⇒28.2%

学生募集作業部会						
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和3年度達成目標	令和3年度実績	令和3年度取組状況【令和3年度事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	◇福岡都市圏の大学の情報・魅力を九州内外の高等学校・生徒・保護者等に効果的に発信し、各大学の認知度向上を支援するとともに、「大学のまち福岡」で学ぶこと・暮らすことのブランド力を高めていくことによりエリア全体の学生募集力の強化を図る。	○ 参画大学の入学志願者数の増加率 2ポイント増加(2018年度比)		● 参画大学の入学志願者数の増加率		
(1) 学生募集力の強化に向けた調査・実証実験事業の展開	学生募集の新しい方策や手法の開拓を目的に、福岡都市圏の大学の情報・魅力の効果的・効率的な発信や新たな募集地域の開拓等に資する調査・実証実験事業を企画・実施・検証し、さらなる事業展開や仕組づくりを活用する。	○ 調査・実証実験事業の実施件数 4件以上	○ PR イベント参加者 500人 ○ 福岡以外での広報活動参加者 100人	【学生募集力の強化に向けた調査・実証実験事業の展開事業】 ● 1件イベントを試験的に開催	【学生募集力の強化に向けた調査・実証実験事業の展開事業】 ● 「Fuku-come English Academy」を開催 英語に興味がある高校生に向けて、現役の大学の留学生が先生役となってオンライン上で英語を教える企画。福岡の大学への進学を後押しする内容として1組2名を対象に試験的に実施。	【評価値】 C 【理由】 イベント開催するためのマンパワー不足が要因。人手を掛けず実施できる企画を検討する必要がある。
(2) 大学生等を活用した広報体制の構築と広報活動の展開	高校生への情報発信にあたり、プラットフォーム参画大学の学生を中心とする広報体制を構築し活動を支援する。	○ ウェブサイトアクセス数 累計90万アクセス ○ 広報媒体の開発件数 3件以上 ○ 広報活動に参加した学生数 延べ100人 ○ 学生広報チームの結成 2020年度	【高校生向けウェブサイトの充実事業】 ○ ウェブサイトアクセス数 18万アクセス 【各大学の募集活動を支援する広報媒体の開発事業】 ○ 高校生向けのパンフレットの企画立案 ○ 「ふくおかカモン」紙媒体での配布方法を検討し、実施 ○ 「福岡は宝島」必要部数を調査の上、配布 【大学生等を活用した広報体制の構築」事業】 ○ 参加学生20~30人	【高校生向けウェブサイトの充実事業】 ● 20万アクセス達成 【各大学の募集活動を支援する広報媒体の開発事業】 ● YouTubeチャンネルを新規に開設 【大学生等を活用した広報体制の構築」事業】 ● 23名で学生広報チームを編成	【高校生向けウェブサイトの充実事業】 ● 「学生座談会」ページを更新済み。 ● 学生広報チーム活動報告ページを新たに作成し、福岡と大学の魅力が詰まった企画を随時発信できる体制を整えた。 ● TwitterやInstagram等を活用し学生広報チームの企画内容を発信した。 【各大学の募集活動を支援する広報媒体の開発事業】 ● 紙媒体からWEBで発信する方針へ転換し、PF参画大学の特徴的な建物や大学の周辺施設を学生広報チームが企画・取材し、計12本の短編動画に編集し新たな広報媒体としてYouTubeを開発して発表した。 【大学生等を活用した広報体制の構築」事業】 ● 福岡ブランディング大学のセミナー・ワークショップを計3回開催し、広報に関心がある学生のスキル向上を図った。計86名の学生が参加。	【評価値】 B 【理由】 コロナの影響も考慮し、紙媒体での広報素材からWEB上で情報発信する方針に転換した結果、WEBサイトの充実や新たにYouTubeチャンネルを開発することができた。これらWEB上の広報媒体運営の中核を担う学生広報チームの参加学生の確保と事業の継続性が課題。

地域人材育成作業部会						
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和3年度達成目標	令和3年度実績	令和3年度取組状況【令和3年度事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	◇各大学の教育・研究力と自治体・産業界の教育資源の融合による新たな学生教育プログラムを開発する。産官学が連携して福岡の歴史・文化、知識創造産業の集積、スタートアップ、MICE等について学ぶと共に課題解決型学習を通じた実践的かつ対話的な学び多様で質の高い教育プログラムを提供し、福岡都市圏の未来を担う人材の育成を目指す。 地域貢献活動ならびに多様な人びととの交流を通じた学生の主体的学びや社会人基礎力の向上を推進するためには、自治体、産業界との連携協力が不可欠である。そのために大学の垣根を越えた学びとその成果について発信し、産官学による人材育成高度化を図る。さらに2024年度以降、物的・財政的支援を引き出す仕組みを模索する。	○「福岡未来創造プログラム」の開発 10科目 ○単位認定可能な福岡未来創造プラットフォーム連携開設に向けた事例調査 3件 ○各種教育プログラム受講学生数 延べ700人		●「福岡未来創造プログラム」の開発 4科目(達成率40%) ●単位認定可能な福岡未来創造プラットフォーム連携開設に向けた事例調査 0件(達成率0%) ●各種教育プログラム受講学生数 延べ226人 ●(達成率38%)		
(1)「福岡未来創造プログラム」の開発	「地域の未来創造を担う人材の育成」に資する、時代に即したオリジナル教育プログラムを開発し、1機関では招聘できない多様な講師陣による集中講義形式で開講する。教育プログラムは座学だけでなく、課題解決型学習等を盛り込み、主体的で深い学びを目指す。なお、中長期計画策定時に想定していた教育・交流拠点形成及び活動支援制度構築については2024年以降の次期中長期計画に向け、福岡未来創造プログラムでの教育交流活動と一体的に取り組むこととする。	○開講科目数 10科目 ○受講者数 延べ700人	【福岡未来創造プログラムの実施事業】 ○「福岡学」受講者 25人 ○「SDGsを学ぶ」受講者 30人 ○新規講座 1講座につき 20～30人 【福岡未来創造プログラムの開発事業】 ○新規開発講座 4講座 【学生ネットワーク構築事業】 ○登録学生数 65人 ○活動証明書発行 40人	【福岡未来創造プログラムの実施事業】 ●「福岡学」受講者 実数22人延べ60人(達成率88%) ●「SDGsを学ぶ」受講者 実数33人、延べ83人(達成率110%) ●「 <u>文理不問！エンジニアに興味のある学生のための基礎講座</u> 」受講者 延べ69人※オンライン参加実数が確認できず延べ人数のみ記載 ●「 <u>自分の頭で考える対話型プログラム～高齢社会の「当たり前」を疑う</u> 」受講者 実数7人延べ14人(達成率35%) 【福岡未来創造プログラムの開発事業】 ●2講座(達成率50%) 【学生ネットワーク構築事業】 ●登録学生数50人(達成率76.9%) ●活動認定証発行7人 ●(達成率17.5%)	【福岡未来創造プログラムの実施事業】 ●「福岡学」 福岡テンジン大学の学長である岩永氏によるコーディネートの下、4回のオンライン講座と2回の対面フィールドワークを実施。 ●「SDGsを学ぶ」 九州産業大学の全面的企画運営により3日間15回を対面で実施(うち1日はフィールドワーク) ●「文理不問！エンジニアに興味のある学生のための基礎講座」 株式会社サインウ代表取締役の村上氏によるコーディネートの下、4回の講座をオンラインと対面を併用したハイブリッド形式で実施。 ●「自分の頭で考える対話型プログラム～高齢社会の「当たり前」を疑う」 NPO法人ドネルモ代表の山内氏によるコーディネートの下、2回のオンライン講座を実施。 【福岡未来創造プログラムの開発事業】 ●「グローバル・キャリア・デザイン講座」と「商店街PBL」の2講座を新規開発。令和4年度実施への準備を整えた。 ●プログラム体系化の根幹となる体系化について検討チームを立ち上げ、4回のミーティングを実施。 【学生ネットワーク構築事業】 ●11回の全体ミーティングを開催し、大橋商店街、香椎商店街の活性化に取り組んだ。 ●Instagram チーム、YouTube チーム、独自企画チームに分かれて活動。Instagram 投稿23件、リール5件、YouTube 動画5件、ショート動画2件、ライブ配信1件、オンラインイベント1件、黒板アート描画1件を実施。	【評価値】 B 【理由】 ・令和3年度事業計画書に記載した福岡未来創造プログラムを実施することが出来た。 ・参加学生数や出席率の低さは課題であるが、各プログラム実施後のアンケートでは、福岡都市圏の愛着増進、地域課題理解や地域貢献意欲の向上、PF認知度の広がりを確認出来た。 ・福岡未来創造プログラムの開発目標の達成率は50%であったが、将来的な展開を見据えた体系化に取り組み、ボトムアップの議論により福岡未来創造プログラム実質化が進んだことは大きな成果である。 ・学生ネットワーク構築については、参加学生で76.9%、活動認定証で17.5%の達成率にとどまった。 ・一方、継続的に参加している学生を中心にニューノーマルに即した活動を実施できた。学生による振り返り運営等、経験から学びを得るプロセスが確立されつつある。今後は、福岡未来創造プログラムの実践演習と位置づけ、PBLとして学生の成長を可視化できるよう改善を図る。

(2)福岡未来創造プログラムの連携開設へ向けた検討	福岡未来創造プラットフォーム加盟大学の効果的な資源共有及び教育機能強化の一環として、単位認定可能な福岡未来創造プログラムの連携開設へ向け、事例調査を行う。全国を対象に先進事例を調査し、福岡未来創造プラットフォームで取り組むための課題を整理する。	○ 事例調査 3件以上	【外部資金を活用した支援制度構築事業】 ○ ヒアリング 5件	【外部資金を活用した支援制度構築事業】 ● ヒアリング 0件 ● (達成率0%)	【外部資金を活用した支援制度構築事業】 ● ヒアリングへ向けた調査を行っていたが、新型コロナウイルス感染第5波～第6波による地域経済低迷と中長期計画見直しのためヒアリングを見送ることとした。	【評価値】 C(事業中止) 【理由】 外部環境の変化が大きく、実施には至らなかったが、中長期計画と一体的な計画修正が出来た。
---------------------------	--	----------------	-----------------------------------	--	--	---

地元就職・定着作業部会

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和3年度達成目標	令和3年度実績	令和3年度取組状況【令和3年度事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	◇福岡都市圏の大学生が地域企業に対して理解を深め、福岡で働くこと・暮らすことへの関心を高めるための企画や事業等を大学・自治体・産業界が共同で推進し、若者の地元就職・定着の促進を図る。 ◇起業・創業マインドを持った優秀な若者の輩出と地元定着の促進に向けて、大学生の起業・創業を支援する人材育成プログラムの開発・実施や環境整備等を大学・自治体・産業界が連携協力して推進する。	○ イベント等への学生等の参加者数 延べ13,000人 ○ インターンシップ・キャリア教育プログラム等の共同開発数 2プログラム以上 ○ 受講者数 延べ120人 ○ 起業家の輩出数 10人		● イベント等への学生等の参加者数 延べ1,862人 ● インターンシップ・キャリア教育プログラム等の共同開発数 0プログラム ● 地域企業インターンシップ等の受講者数 延べ39人 起業家の輩出数 0人		
(1)地元就職・定着に資する事業の共同実施	大学生を対象とした「福岡で働くこと・暮らすこと」を学ぶイベント、地域企業で働く人との交流会、地域企業の説明会等を企画・実施する。	○ イベント等への学生等の参加者数 延べ13,000人	【地元企業による学生のための事業(学生ニーズ調査)】 ○ アンケート回答率80% 【地元企業による学生のための事業(オンライン合説)】 ○ 参加者 延べ3,000人	【地元企業による学生のための事業(学生ニーズ調査)】 ● アンケート回答率約5% 【地元企業による学生のための事業(オンライン合説)】 ● 出展企業延べ192社 ● 参加者数延べ1,862人(PF加盟大学参加者の想定人数) ※9月実施除く ※全体4,332人	【地元企業による学生のための事業(学生ニーズ調査)】 ● R3年度オンライン合同会社説明会の申込者へアンケートを実施。 ● 学生ニーズ調査として実施した年度末アンケートの回答者は66人 【地元企業による学生のための事業(オンライン合説)】 ● オンライン合同会社説明会 ● R3年4月16-18日、6月25-26日、(9月3-4日)、11月5-6日、R4年1月29日 ※9月3-4日は中途向けに実施 ● オンライン(Zoom)開催	【評価値】 C 【理由】 ・学生ニーズ調査はオンライン合同会社説明会の参加者アンケートという形で実施。各回の申込者合計を基に計算すると、アンケートの回答率は約5%であった。次年度以降、ニーズ調査の方法に工夫・改善の検討が必要と思われる。 ・オンライン合同会社説明会の全体参加者数はのべ4,332人(中途向けに開催した回の参加者数除く)であり、申込者のPF加盟大学在籍率から計算するとPF加盟大学からの参加はおおよそ1,862人であり、目標人数に届かなかった。
(2)地域企業インターンシップ等の共同実施	若者の地元就職・定着の促進につながる地域企業インターンシップやキャリア教育プログラム等を各種団体への調査結果を踏まえ、開発・実施する。	○ インターンシップ等の開発 2プログラム以上 ○ 受講者数 延べ120人	【地域企業インターンシップ等共同実施事業(オンラインモグジヨブ)】 ○ 80人	【地域企業インターンシップ等共同実施事業(オンラインモグジヨブ)】 ● 39人	【地域企業インターンシップ等共同実施事業(オンラインモグジヨブ)】 ● 実施日:10月26～28日の3日間(16:45～17:45) ● 実施日:12月1～3日の3日間(16:45～17:45) ● 実施日:2月14～16日の3日間(16:45～17:45) 実施形態:すべてオンライン 参加学生数:39名(8校) ● (九州産業大学、九州大学、サイバー大学、西南学院大学、筑紫女学園大学、福岡女子大学、福岡工業大学、福岡大学)	【評価値】 B 【理由】 対象を理系学生に絞った事業を試みたが、開催時期等のタイミングのためか学生の集まりが芳しくなかった。参加企業・参加学生は、おおむね満足しており、今後の課題として、開催日時の工夫や参加学生を増やす取り組みがあげられる。

(3)起業・創業人材の育成支援及び環境整備	各大学へアントレプレナーシップ教育の状況調査をおこない、その結果を踏まえ、学生の起業・創業に向けた支援及び環境整備を企画・実施する。	○ 起業家の輩出数 10人	【Fukuoka School of Entrepreneurship 事業】 ○ 令和5年度までに 起業家10人 【起業塾事業】 ○ 起業家1人	【Fukuoka School of Entrepreneurship 事業】 ● 0人 【起業塾事業】 ● 0人 (R1~R3:累計4人)	【Fukuoka School of Entrepreneurship 事業】 ● 学生向けアントレプレナーシップ科目5講義を実施 延べ123人参加 ● 教員向けアントレプレナーシップ科目3講義を実施 延べ22人参加 【起業塾事業】 ● ビジネス体験プログラム「THE FIRST STEP〜ココから、はじめる。」を実施(3/10・3/11、オンライン) セミナー・ワークショップ参加:6大学10人 ※上記のほか、セミナーのみ参加:7大学15人	【評価値】 B 【理由】 ・教員向け科目の実施により、各大学のアントレプレナーシップ教育に関心の高い教職員の把握ができた。 ・起業文化の裾野拡大に向けて、初級者向けのプログラムを実施し、学生の起業に対する関心を高めることができたが、起業家の輩出には至らなかった。 ・R4年度は、より実践的なプログラムの実施により、起業家の輩出を目指していく。
-----------------------	--	------------------	---	--	--	--

生涯学習作業部会

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和3年度達成目標	令和3年度実績	令和3年度取組状況【令和3年度事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	◇多様な人びとが豊かな学びを通して社会の中で活躍できるダイバーシティ社会の実現に向けて、プラットフォームに参画する大学・自治体・産業界が一体となり、子どもから社会人、高齢者に至るまで、地域の多様な人びとの主体的な学びと成長、社会での活躍を促す学習環境の提供・充実を推進する。	○ 生涯学習・リカレント教育プログラムの共同開発数 5プログラム以上 ○ 受講者数 延べ1,000人 ○ プラットフォーム参画大学の生涯学習プログラムの情報や魅力等を効果的・効率的に発信する仕組の整備 2023年度完了		● 生涯学習・リカレント教育プログラムの共同開発数 3プログラム ● 受講者数 延べ446人 ● プラットフォーム参画大学の生涯学習プログラムの情報や魅力等を効果的・効率的に発信する仕組の整備 2023年度完了		

(1)生涯学習・リカレント教育及び小中高の教育支援の推進	社会人、子ども、女性、高齢者、外国人及び障がい者を初めとした、地域の多様な人びとの社会での活躍や貢献を促す質の高い生涯学習・リカレント教育プログラムを開発・実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習・リカレント教育及び小中高の教育支援プログラムの開発数 5プログラム以上 ○ 受講者数 延べ1,000人 	<p>【多様な人びとの学びと活躍を促す生涯学習・リカレント教育プログラム事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3事業 ○ 参加者数 延べ120人以上 <p>【小中高の学校教育支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2事業 ○ 参加者 延べ80人以上 	<p>【多様な人びとの学びと活躍を促す生涯学習・リカレント教育プログラム事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの貧困を科学する2021 参加者:延べ154人 ● 福岡のトップランナーに学ぶDX講座～経営に直結するデータとヒトの意思決定～ 参加者:78人 ● 「アラカンフェスタ2022」小セミナー 参加者:50人 <p>【小中高の学校教育支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福岡キャリア共創ラボ 参加者:延べ64人 ● 明日から活かせるユニバーサルデザインフォントの基礎知識とワークショップ 参加者:24人 	<p>【多様な人びとの学びと活躍を促す生涯学習・リカレント教育プログラム事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「子どもの貧困を科学する2021」 11月18日、12月16日、1月27日の計3回オンラインにて開催し、参画大学の教員による事前学習や子どもの貧困問題の最前線で活躍する講師によるオンライン講座を開催した。 ● 「福岡のトップランナーに学ぶDX講座～経営に直結するデータとヒトの意思決定～」 (株)グッデイ代表取締役社長柳瀬氏、(株)DXパートナーズ代表取締役村上氏を講師に、(株)Fusic 取締役副社長をモデレーターにお招きし、オンライン講演会およびパネルディスカッション等を実施した。 ● 「アラカンフェスタ2022小セミナー」 60歳前後のアラウンド還暦世代を対象としたイベントにおいて、光薫寺住職の小林信翠氏をお招きし、ミニセミナーを開催した。 <p>【小中高の学校教育支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「福岡キャリア共創ラボ」 高校生のキャリア教育の一環として、大学生との交流の場をつくり、2021年度は、市内2高校の協力のもと、計5回開催した。 ● 「明日から活かせるユニバーサルデザインフォントの基礎知識とワークショップ」 小中高大の教職員を中心に、教育現場に最適なユニバーサルデザインフォントの活用方法について、ワークショップ等を通して、体験するイベントとして実施した。 	<p>【評価値】 A</p> <p>【理由】 事業数、参加者数ともに目標値を上回る事ができた。特に参加者数については、目標値を大幅に上回る事ができた。 コロナ禍において、オンライン開催としたことが、参加へのハードルを下げる要因となり、参加者数が増加したと推察される。また、オンラインイベントのノウハウを得る事ができた。</p>
(2)生涯学習環境の充実に向けた調査・実証実験の展開と整備の推進	福岡都市圏の生涯学習環境の充実に向けて、ニーズや人材の把握、効果的な生涯学習情報の発信等に関する調査・実証実験事業に取り組むとともに、その成果に基づき環境整備を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査・実証実験事業の実施件数 3件以上 ○ アンケートの回収数 1,000件以上 ○ ヒアリング数 15件以上 ○ 生涯学習環境の整備 2023年度までに生涯学習情報発信の仕組整備 	<p>【生涯学習環境の充実に向けた調査・実証実験の展開と整備の推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2事業 ○ アンケート実施 200人以上 ○ ヒアリング実施 3件 	<p>【生涯学習環境の充実に向けた調査・実証実験の展開と整備の推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リカレントカフェ 参加者:延べ231人 アンケート:128人 ● 「アラカンフェスタ2022」ブース出展 ● ヒアリング事業 未実施 	<p>【生涯学習環境の充実に向けた調査・実証実験の展開と整備の推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リカレントカフェ 社会人の学びのニーズを探るとともに、リカレント教育の普及・推進の担い手発掘及びネットワークづくりを進めることを目的に、計6回オンライン開催した。 ● アラカンフェスタブース出展 各大学が実施する生涯学習事業の情報発信のため、前述のアラカンフェスタにおいて、ブース出展をし、各種チラシ等の配布を行った。イベント全体の参加者は、1,791名で、310部の資料配布を行う事ができた。 	<p>【評価値】 B</p> <p>【理由】 各種達成目標値には届かなかったが、アラカンフェスタへのブース出展という新たな取り組みを実施することができた。 更なる効果向上のために、既存事業の見直しや新規事業の立案を行ってきたい。</p>

大学・自治体・産業界交流作業部会						
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和3年度達成目標	令和3年度実績	令和3年度取組状況【令和3年度事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	<p>◇プラットフォーム参画機関を中核として、福岡都市圏の大学・自治体・産業界の組織の垣根を越えた交流・連携を活性化し、多様な人びとの入り混じりを通して異なる分野を越境し融合する新しい知の創造や人材の成長を促す環境づくりを推進する。</p> <p>◇プラットフォーム参画機関の経営力の強化(コストの削減、業務の効率化、教育・研究力の向上等)を目的に、知的・人的・物的資源の共有化や業務の共同化の様々な可能性について調査・検討し、それらを実現するための体制や制度、仕組みづくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産官学の組織の垣根を越えた交流者数 延べ1,530人 ○ 交流・支援に基づく新規企画・事業等の実現件数 20件 ○ 人事交流の実績件数 7件 ○ 資源共有化や業務共同化の実現件数 5件 		<ul style="list-style-type: none"> ● 産官学の組織の垣根を越えた交流者数 延べ●人 ● 交流・支援に基づく新規企画・事業等の実現件数 2件 ● 人事交流の実績件数 1件 ● 資源共有化や業務共同化の実現件数 0件 		
(1)対話と交流の場づくりの推進	<p>大学・自治体・産業界の対話と交流の場を継続的に開催することで、組織の垣根を越えた顔の見える関係性づくりを進めるとともに、福岡の未来創造につながる多様な提案の創出につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流イベントへの参加者数 延べ710人 ○ 交流に基づく新規企画・事業等の提案件数 16件 	<p>【対話と交流の場づくりの推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対話と交流の場への参加者数 延べ180人以上 ○ 対話と交流に基づく新規企画・事業等の提案件数 5件 	<p>【対話と交流の場づくりの推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対話と交流の場への参加者数 延べ951人 ● 対話と交流に基づく新規企画・事業等の提案件数 6件 	<p>・福岡都市圏で先進的な教育・人材育成に携わる大学・自治体・産業界等の有志メンバーが定期的に集まり、「福岡の未来の学びの創造」をテーマに対話と実践活動に取り組むキーパーソン交流会「福岡まなびラボ」を開催した。</p> <p>・令和3年度は6月から3月にかけて毎月1回(計10回)開催し、延べ158人が参加した。レギュラーメンバーとして大学教職員4名、小中高教員4名、行政2名、企業5名、NPO法人4名、経済団体4名、大学生2名が参画し、今年度も「福岡の未来の学びの創造」をテーマに対話、学習会、新規事業の構想づくり等に取り組んだ。</p> <p>・福岡まなびラボでの対話と交流から、次の6件の新規企画の提案及び実施につながった。①「リカレントカフェ:これからの学びはどうなっていく?」(生涯学習WGに提案⇒11/1日実施)、②「リカレントカフェ:ふくおか対話と学び」学園祭、はじまるよ」(生涯学習WGに提案⇒12/9実施)、③「対話型イベントのつくり方講座」(本WGに提案⇒1/14実施)、④「ふくおか対話と学び学園祭オープンイベント:まだ知らない関係の紡ぎかた、今日ここから」(本WGに提案⇒3/5実施)、⑤「ふくおか対話と学び学園祭クロージングイベント:多様な価値観から見つめる自分、今日このまちで」(本WGに提案⇒3/27実施)、⑥「大学生が求める学びの対話会」(地域人材育成WGに3月に提案・企画⇒4/7実施)。これらすべての企画において福岡まなびラボのメンバーが講師・ファシリテーター・イベント運営等の実施レベルにおいても参加・支援をおこなった。</p> <p>・前年度の福岡まなびラボからの提案にもとづき、福岡都市圏における産官学民の組織の垣根をこえた対話と交流の促進を目的に「ふくおか対話と学び学園祭」を本WGで企画・開催した。本企画では、福岡都市圏をひとつの大学に見立てて、3月の1か月間を「ふくおか対話と学びMONTH」として、対話と学びをテーマにした登録イベントをひろく募集し、開催した。学園祭期間中に、大学・NPO・行政・企業・大学生などの団体・個人から60件の対話型イベントの登録希望の応募があり、学園祭実行委員会での審査をへて開催された。うち29件は学園祭のために新たに企画・開催されたイベントであり(他はもともと開催予定であったイベントを登録)、これらのイベントに延べ793人が参加した。</p>	<p>【評価値】</p> <p>S</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話と交流の場への参加者数及び新規企画・事業の提案件数の数値目標を十分に達成することができた。特に参加者数に関しては、目標を大幅に超えることができた。 ・福岡まなびラボのこれまでの対話と関係性づくりの成果を土台に、今年度は同メンバーを中心に「ふくおか対話と学び学園祭」という大型事業を企画・実施し、本WGのミッションである「福岡都市圏の大学・自治体・産業界等の組織の垣根を越えた対話と交流の促進」に大きく寄与することができた。 ・地域人材育成WGが進めている「福岡未来創造プログラム」の体系化の取組みのなかで、「当事者である大学生の視点やニーズをどのように組み込むか」という課題に対して、福岡まなびラボのメンバーが大学生を対象としたワークショップの提案・企画を行うなど、各WGの課題や相談に対して必要な支援をおこなうシンク&ドゥータンクとしての役割も果たすことができた。

<p>(2) 共同研修事業の推進</p>	<p>参画機関の人材の資質向上及び交流の促進を目的に、効果的な研修プログラムを開発・実施する。加えて、各機関の既存研修プログラムを他機関の職員等も受講できる仕組づくりを進める。</p>	<p>○ 研修の共同実施件数 14 件(PF 主催:8 件 既存開放:6 件) ○ 研修への参加者数 延べ 320 人 (PF 主催:延べ 260 人 既存開放:延べ 60 人)</p>	<p>【共同研修事業の推進事業】 ○ 研修の共同実施件数 3 件以上 (PF 主催:2 件 既存開放:1 件) ○ 研修への参加者数 延べ 90 人以上 (PF 主催:80 人 既存開放:10 人)</p>	<p>【共同研修事業の推進事業】 ● 研修の共同実施件数 2 件(PF 主催:2 件、既存開放:0 件) ● 研修への参加者数 延べ 76 人(PF 主催、既存開放:0 人)</p>	<p>【共同研修事業の推進事業】 ・PF 主催の研修として「ICT を用いた同時双方向型の遠隔授業に関する SD 研修」(10/29、オンライン)を企画・実施した。本研修では、サイバー大学の川原洋学長による基調講演と、中村学園大学・福岡工業大学・福岡歯科大学・福岡女子大学・福岡大学の 5 大学による事例報告がおこなわれた。本研修には、PF 加盟機関(10 大学、1 自治体)から 58 人(定員 50 人)が参加し、ICT の活用に関する先進的な取組に関する情報共有が行われた。アンケート結果では、回答者 39 名のうち基調講演は 95%の方から、事例紹介は 92%の方から「とても参考になった・参考になった」との回答をいただいた。 ・PF 主催の研修として「対話型イベントのつくり方講座」(1/14、対面→オンラインへ変更)を実施した。本研修は、昨年度に実施した「対話とファシリテーション研修」の第二弾にあたる。本講座では、「対話のある場」の企画や設計の基礎的な手法を学ぶことを目的に、福岡テンジン大学学長の岩永真一氏を講師に迎えて座学とワークショップに取り組んだ。本研修には、PF 加盟機関を中心に大学・自治体・NPO 等から 18 人(定員 20 人)が参加した(新型コロナウイルスの感染拡大のため直前にオンライン開催に変更した影響で 25 名の事前申込のうち当日キャンセルが多くなった)。アンケート結果では、回答者 12 名のうち 92%の方から「とても満足・満足」との回答をいただいた。</p>	<p>【評価値】 B 【理由】 ・PF 主催研修に関しては、実施件数・参加者数ともに概ね目標を達成することができた。しかし、PF 加盟機関で実施されている既存研修の開放に関しては、協力機関が見つからず目標の 1 件を達成することができなかった。 ・2 つの研修ともに、PF の強みを生かした、大学間及び産官学間の組織の垣根を越えた質の高い学びあいと交流の場を実現することができた。参加者のアンケート結果にもみられるように、複数機関(大学間、産官学間)で研修を共同実施することにより、多様な組織・属性の参加者との学びあいや交流により多様な視点から研修テーマについて考えを深めることができるなど、高い学習効果を得ることができたと考えられる。</p>
<p>(3) 人事交流の促進</p>	<p>プラットフォーム参画機関の人材の育成及び組織の活性化を目的に、人事交流(発令を伴わないものも含む)に関する調査・検討を進め、実現のための制度や仕組づくりの調整、機関間のマッチング、及び実施結果の検証等に取り組む。</p>	<p>○ 人事交流の実績件数 7 件</p>	<p>【人事交流の促進事業】 ○ 人事交流の実現・促進に向けた企画提案書の策定</p>	<p>【人事交流の促進事業】 ● 企画提案書の作成・報告(令和 4 年 3 月 PF 運営委員会) ● 人事交流の実績件数 1 件(福岡市→九州大学へ派遣)</p>	<p>【人事交流の促進事業】 ・本 WG 内の「人事交流小チーム」を中心に、4 月～1 月にかけて前年度末に実施した「共同調達・共同利用・人事交流に関するアンケート調査」結果の分析・検討、全国の先進事例の調査、PF 加盟機関の人事部等へのヒアリング調査(3 機関)等に取り組んだ。これらの調査・分析をもとに、人事交流の実現・促進に向けた企画提案書を作成し、3 月の運営委員会にて報告をおこなった。同報告では、①PF 加盟機関における人事交流のニーズ等に関する調査・検討結果を報告したうえで、②PF 加盟機関間における人事交流の方針・仕組みの提案(発令を伴う長期(半年～数年)の人事交流に限定せず、短期(単日)及び中期(数日～数週間)の発令を伴わない多層的な人材交流の機会の充実を図ることで、プラットフォーム加盟機関の人材の成長と組織の活性化を促す環境づくりにつなげていく)をおこなった。令和 4 年度からは同企画提案書の内容にもとづき、人事交流の制度及び仕組の構築に取り組んでいく。</p>	<p>【評価値】 A 【理由】 ・目標通り、人事交流の実現・促進に向けた企画提案書を策定し、運営委員会に提出・報告することができた。PF 加盟機関のニーズ調査や全国の先進事例の調査等によりしっかりと取り組み、本 WG のミッションを実現するうえで効果的かつ実現可能性が高い人事交流の仕組みを提示することができた。</p>

<p>(4)資源の共有化や業務の共同化の検討及び実現</p>	<p>プラットフォーム参画機関間において、資源の共有化や業務の共同化の様々な可能性(備品・設備等の共同調達、施設・設備等の共同利用、業務システムの共同開発、クロスポイントメント制度の実施、事務の共同運営等)について調査・検討し、実現のための組織体制の構築や制度の整備、機関間の調整等に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資源共有化や業務共同化の実現件数 5件 ○ 実施体制の構築 2020年度(調整組織の設置) 	<p>【資源の共有化や業務の共同化の検討及び実施体制の構築事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2022年度に実施決定した資源共有化・業務共同化の企画件数 1件 	<p>【資源の共有化や業務の共同化の検討及び実施体制の構築事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2022年度に実施決定した資源共有化・業務共同化の企画件数 12件 	<p>【資源の共有化や業務の共同化の検討及び実施体制の構築事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本 WG 内の「共同調達小チーム」及び「共同利用小チーム」を中心に、4月～9月にかけて前年度末に実施した「共同調達・共同利用・人事交流に関するアンケート調査」結果の分析、全国の先進事例の調査、定例会での検討等に取り組んだ。これらの調査・検討結果をもとに「共同調達に関する調査票」及び「共同利用に関する調査票」を作成し、12月～2月にかけて PF 全加盟機関を対象に実施に向けた意向調査を行った。 ・同調査の結果、共同調達に関しては「PPC 用紙(A4)」、「PPC 用紙(A3)」「トイレットペーパー」「重油」の4品目で4機関から「共同調達の実施に参加したい・参加を検討したい」との回答を得ることができた(令和4年度に市場調査⇒実施に向けた調整を進めていく)。 ・共同利用に関しては、九州大学・筑紫女学園大学、福岡工業大学、福岡大学、福岡商工会議所の5つの加盟機関から計12の施設が令和4年度から共同利用の実施が可能との回答を得ることができた(13の施設の回答があったが、うち1施設は新型コロナウイルスの影響により当面外部利用は中止)。これらの施設に関しては、3月の代表者会議において「令和4年度 共同利用施設・設備一覧」として報告・共有を行った。 	<p>【評価値】 A</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の取組の結果として、令和4年度から12の施設・設備の共同利用の実施が確定し、本年度の数値目標を大きく上回ることができた。 ・共同利用に関しては、利用者側だけでなく、提供者側にとってもメリットとなる仕組みをつくっていくことが今後の課題となる。 ・共同調達に関しては、市場調査を踏まえて、再度4機関に意向を確認しなければならず、まだ実施できるか否かが確定していない。
<p>(5)組織の垣根を越えた交流を促進する支援制度の運用</p>	<p>プラットフォーム内の組織の垣根を越えた交流の促進に資する自主的な企画や事業(課題解決型プロジェクト、学習会、各種イベント等)を資金面・広報面から支援するための制度を整備し、運用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援件数 10件 ○ 認定件数 5件 ○ 支援・認定制度に基づく交流者数 延べ500人 	<p>【プラットフォーム内の組織の垣根を越えた自主的活動の支援・認定制度の整備・運用事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 助成型プロジェクト4件 ○ 認定型プロジェクト4件 ○ 制度に基づく交流者数 延べ200人 	<p>【プラットフォーム内の組織の垣根を越えた自主的活動の支援・認定制度の整備・運用事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 助成型プロジェクト4件 ● 認定型プロジェクト0件 ● 制度に基づく交流者数 延べ371人 	<p>【プラットフォーム内の組織の垣根を越えた自主的活動の支援・認定制度の整備・運用事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動資金を助成する「助成型プロジェクト」とプラットフォームが後援し事業の情宣活動を行う「認定型プロジェクト」の2種類の募集をおこなった。 ・助成型プロジェクトは次の4件の申請があり、本WGで審査・採択のうえ実施された。①「市民研究員・まちかどライブラリー」(代表者:福岡大学商学部森田准教授/福岡大学・日本経済大学・九州大学の関係者を中心に構成)、②「“樋井川村”の市民普請」(代表者:福岡大学工学部伊豫岡助教/福岡大学・九州産業大学・西南学院大学の関係者を中心に構成)、③「福岡プラスチックリサイクル先導プロジェクト」(代表者:九州大学芸術工学研究院近藤教授/九州大学・福岡大学の関係者を中心に構成)、④「大学連携による子ども食堂実行プロジェクト」(代表者:筑紫女学園大学人間科学部大西准教授/筑紫女学園大学・九州産業大学の関係者を中心に構成)。4つのプロジェクトの活動を通して、延べ371人の組織の垣根を越えた交流が生まれた。 	<p>【評価値】 B</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成型プロジェクトに関しては、件数・交流者数ともに十分に目標を達成することができた。また、採択されたプロジェクトは、いずれもPF加盟機関の複数大学及びNPO・企業・地域住民などの多様な主体がプロジェクトメンバーとして参画し、本WGがミッションとする組織の垣根を越えた交流の促進と関係性づくりに大きく貢献することができた。 ・一方で、資金面の支援がない認定型プロジェクトに関しては、今年度は申請がなく、今後検討が必要である。